

三菱パイプ用ファン (強制給気ユニット・居室用)

形名 **V-08PQF4 (-BE,-CK)** (高性能じんフィルター搭載タイプ)
V-08PQF4 -H (微小粒子用高性能フィルター搭載タイプ)
V-08PQFF4 (-BE,-CK) (高性能じんフィルター搭載タイプ)

据付け説明書

販売店・工事店様用

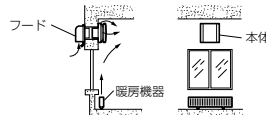
別冊の取扱説明書は「お客様用」です。必ずお渡しください。

■据付けを始める前に、必ずこの説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。
 ■この製品は常時運転の給気専用タイプです。エアフロー換気システム(常時小風量換気システム)の強制給気ユニットとしてご使用になります。

- 電気工事は電気工事の方が実施してください。
- この製品は住宅の居室用です。業務用などそれ以外の用途では使用しないでください。
 (故障の原因になります)
- 直接屋外から給気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材(フードなど)を据付けてください。
- 外風の吹き付けの強い場所では耐外風高性能フードを据付けることをおすすめします。
 (壁面汚れ、雨水浸入、異常音発生の原因になります)
- 開放式ストロープをご使用の場合は、本製品では換気風量不足ですので、専用の換気扇を据付けてください。
- 本体スイッチの操作が困難なところに据付ける場合は、壁スイッチ(システム部材のコントロールスイッチまたは市販品の)併用をおすすめします。壁スイッチは容易に停止されないよう配慮ください。(カバー付など)
 ・壁スイッチは入/切タイプをご使用ください。(壁スイッチによる風量切替はできません)
- 壁スイッチを併用する場合は、取扱説明書の使用方法に従い、本体スイッチを設定してください。
 V-08PQF4 (-BE,-CK) ・ V-08PQF4-H……本体入切スイッチを「入」にする
 V-08PQFF4 (-BE,-CK) ……本体入切スイッチを「入」にして、強弱スイッチで風量を設定する。

お願い

- 高温(40℃以上)になるところに据付けしないでください。
 (モーターの寿命が短くなる原因になります)
- 塩害、湯害の発生している場所には据付けしないでください。
- 天井や傾斜面には据付けしないでください。
 (雨水や結露水がモーター内部にたまり、ショートの原因になります)
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。
 (振動の原因になります)
- システム部材(フードなど)は壁厚にあったものを選んでください。
 (壁厚により据付けられないものがあります)
- 壁板は、振動・共鳴音防止のため、強度のあるものとしてください。
- 火災警報器がある場合は、感知部から1.5m以上離れたところに据付けしてください。
- V-08PQFF4 (-BE,-CK) にはプラグ付電源コードを使用しないでください。
 (内部コンデンサーに蓄電されています)
- 冬期の場合、冷気が直接入ってきますので、下図のような設置をおすすめします。



安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

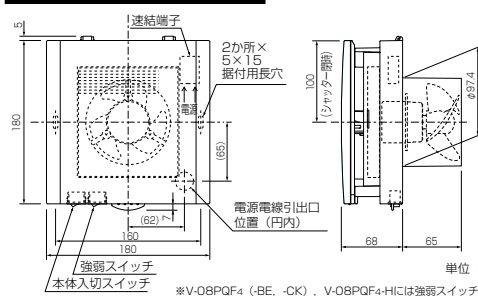
警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

- 製品を水につけたり、水をかけたりしない
 ショートや感電の原因。
- 改造や必要以上の分解はしない
 火災・感電・けがの原因。
 分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが、電氣的に接触しないよう据付ける
 漏電・発火の原因。
- 外気取り入れ口は、燃焼ガスなどの排気口より離れた位置に設置する
 室内の酸欠の原因。
- 交流100Vを使用する
 直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。

注意 誤った取扱いをしたときに軽傷または家具・家財などの物的損害に結びつくもの

- 煙炎が当たるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない
 火災の原因。
- 浴室など湿気が多いところには据付けない
 感電および故障の原因。
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼する
 感電や火災の原因。
- 据付けの際は必ず手袋を着用する
 着用しないといけない原因。
- 部品の据付けは確実に行う
 落下によるけがの原因。
- 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う
 落下によるけがの原因。
- 電気工事は電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)および内線規程に従って安全・確実に行う
 接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。
- 据付け後、長期間使用しない場合は、分電盤のブレーカーを切る
 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。

外形寸法図



付属部品

- 木ネジ……………2本
- クッション……………1本
- 運転保持シール……………強運転用1枚 (V-08PQFF4 (-BE,-CK) ……弱運転用1枚のみ)

適用パイプ

- 塩化ビニル管 ……VU、VP (呼び径100mm)
- 鋼板管 (内径100mm)

据付け方法

注意

- 湿気が多い場所(浴室及びシャワー付洗面台・衣類乾燥機などの湿気が直接当たる場所)、結露する場所には据付けない(感電・故障の原因)

1.据付け前の準備

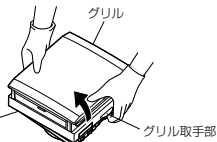
グリルの取手部を引きながらグリルを本体からはずす。

〈接続パイプ別準備〉

接続パイプは塩化ビニル管の薄肉(VU)管(内径107mm)、厚肉(VP)管・鋼板管(内径100mm)またはこれに相当する内径のパイプを用意してください。

お願い

- アルミフレキシブルダクトは堅固な据付けができないため使用しないでください。



据付け方法のつづき

VP管・鋼板管の場合(内径100mmのもの)

そのまま接続パイプに挿入する。

VU管の場合(内径107mmのもの)

本体パイプ部に付属のクッションを貼付け、接続パイプに挿入する。

お願い

- クッションは右図の位置に貼付けてください。
- クッションの貼り付けを確実にしないと、パイプと本体のすき間からの雨水の浸入や、ほこりの侵入で壁を汚すことがあります。端部にすき間ができないよう貼付けてください。

〈据付け穴の準備〉

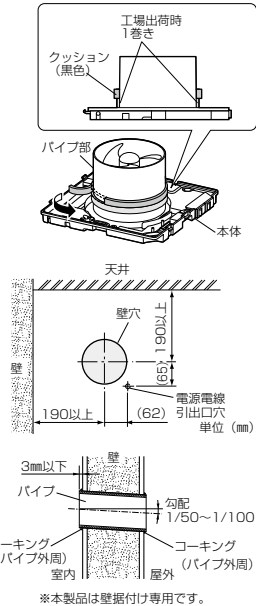
- 1.据付け場所を決めて穴をあける。
 ●必要壁厚に応じてパイプの長さを決めてください。
 参考：P-13VS4(深形フード)使用の場合

必要壁厚 ≥ 本体埋込寸法 + 深形フードの(パイプ接続部) + 余裕しろ (109mm以上) (65mm) (42mm) (2mm)

- 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。
 - 壁・天井との距離が近いと壁・天井面が汚れる場合があります。
- 2.壁・天井にパイプを確実に固定する。
 パイプと壁のすき間はコーキング処理を施す。
 ●電源電線を室内に引き込んでから〔2.電気工事〕参照〕行ってください。
 ●固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。

お願い

- パイプは雨水の浸入を防ぐため室外側に下りこう配をつけ、固定してください。
- 室内への雨水浸入を防止するためパイプは室内壁面まで差し込んでください。



2.電気工事

警告

- 交流100Vを使用する
 直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。

注意

- 電気工事は電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)および内線規程に従って安全・確実に行う
 接続不良や誤った電気工事は、感電・火災の原因。
 ●電気工事は電気工事店に依頼する 感電や火災の原因。

■市販の壁スイッチを使用される場合は、適切なスイッチを選定して接続してください。
 (パイロットランプ付の場合は低ワット(0.5A)用としてください)

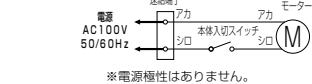
お願い

- 既設換気扇と交換する場合など、電源電線引出口位置が本体左側にある場合は、電源電線が本体が壁から浮かないよう、本体裏側の空間を確保するか、電源電線引出口穴を広げてください。
 穴を広げた場合は、風漏れ防止のため、必ず不要な部分を補修してふさいでください。

- 1.電源電線を右図の位置から室内に引き込む。
 ●電源電線はVVVFφ1.6またはφ2.0 2芯をご使用ください。
- 2.電源電線の先端を右図に合わせて皮むきする。
 ●端子部への水の浸入・ほこりの侵入を防ぐため、皮むき寸法を必ず守ってください。

■線結図……本線部分を接続してください

V-08PQF4 (-BE,-CK) ・ V-08PQF4-H



V-08PQFF4 (-BE,-CK)



3.本体の据付け

- 1.電源電線を連結端子に差し込む。
 ①連結端子カバーの引掛部に手を掛け、右図のように開ける。
 ②電源電線を連結端子に差し込み、軽く引っ張って抜けないことを確認する。
 ③確実に連結端子カバーを元通り閉じる。

お願い

- 電源電線の皮むき部分は確実に連結端子に差し込み、端子より出ないようにしてください。(ショートなどの原因になります)
- 電源電線は本体面に密着させて配線してください。(本体が壁面より浮く原因になります)
- 電源電線を連結端子よりはずす場合は、ボタン部を押しながらゆっくり電源電線を引き抜いてください。

- 2.本体の上下を確認してパイプに差し込み、本体が左右に傾かないよう水平に付属の木ネジ(2本)で固定する。

お願い

- 左右の据付け用長穴をご使用ください。必要に応じてコーナー部ネジ(薄肉部)をご使用ください。
- 本体が壁面より浮かないよう据付けてください。
- 石膏ボードに据付けの場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

- 3.グリルを本体に据付ける。
 本体のグリル引掛部(2か所)にグリルの角穴部をはめ込み、下側を押さえて固定する。

- 4.以上の据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。
- 5.試運転を行う。

試運転

据付けが完了したら下記の内容にて試運転を行い、正常に動作するか、異常音・振動などがなければ確認してください。

- 1.パネルを上方向に手でスライドさせ、シャッター(グリル内部)が閉じることを確認する。
- 2.パネルを下方向にスライドしてシャッターを開き、本体入切スイッチで換気扇が運転・停止するかを確認する。

V-08PQFF4(-BE,-CK)の場合

- 本体入切スイッチを「入」にした後、強弱スイッチで強弱運転が確実に切替わることを確認する。
- お客様に強あるいは弱運転を保持していただくために同梱の運転保持シールをスイッチ近傍の見える位置に貼付けてください。
 (V-08PQFF4(-BE,-CK)の場合)

お願い

- 試運転が終了したら本体入切スイッチを「切」にしてください。また、パネルを上方向にスライドさせ、シャッター(グリル内部)を閉じてください。(お客様がご使用になるまで製品内部にほこりがはいらぬようにするため)

